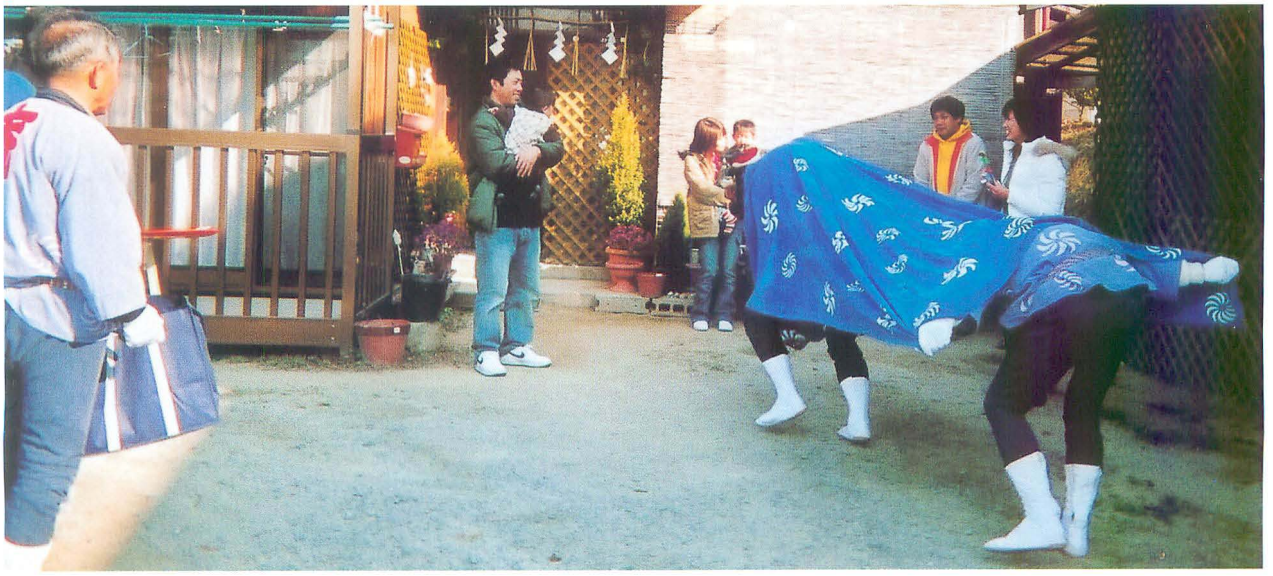
一区

龍江庵会（いおりかい）

一月一日

御庵

春日神社の宮司よりお祓いを受け、獅子舞を奉納する。続いて常会内の辻七ヶ所で、厄払いの舞を行う。なお、道中で所望（結婚・誕生・新築・家内安全等）された家で、舞を行い、獅子頭が玄関内に入って、当家の繁栄と祝福を行っている。



春日神社、歳旦祭

一月一日

一　区

新年の祈願（五穀豊穣、地区の繁栄、交通安全、厄除、新築祝、出産祝、その他）

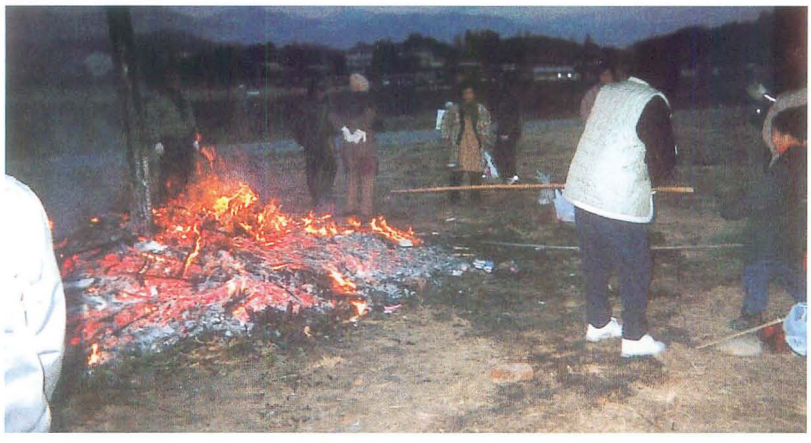
一区

おんべ

一月七日・十四日

正月の松飾りや達磨、おふだを持寄り燃やして供養する。燃やしたおきで餅を焼き、餅を食べて、無病息災を願う。

小学生の行事であったが、人員の減少により現在は常会の行事になった。



兎城公園の大平神社祭・津島様祭

四月末

上城上　上城下

神之峰（かんのみね）の知久氏の出城として、東城（兎城）の城跡にできた公園に（土塁や内堀は現存しているが、外堀は、イタチガ沢最終処分場造成でなくなっている）大平神社と津島様が祭られている。大平神社の祭典は昭和二十年頃より屋台の出店や昼煙火を打ち上げるなど盛大に行われていた。昭和六十二年には、幟（のぼり）を新調している。

一区

蚕玉様と厄除観音祭

四月二十五日

（夏 津島様七／十四　秋 秋葉様十／十）

船渡北　船渡南

蚕玉様については、養蚕家がなくなったため豊作祈願と厄除け安全祈願をしている。

蚕様の幟（のぼり）を立て、石碑に供え物をした後、船渡南北常会の人達で直会を行う。

お瀧様祭

七月中旬

一区

瀧十右衛門（江戸より赴任した代官）の大井事業の功績をたたえ、また偲んでお参りをする。定継寺でお経をあげて供養する。鼬ヶ沢水道の碑が春日神社に建てられている。定継寺に戒名「龍泉院仁政里潤居士」の位牌がある。

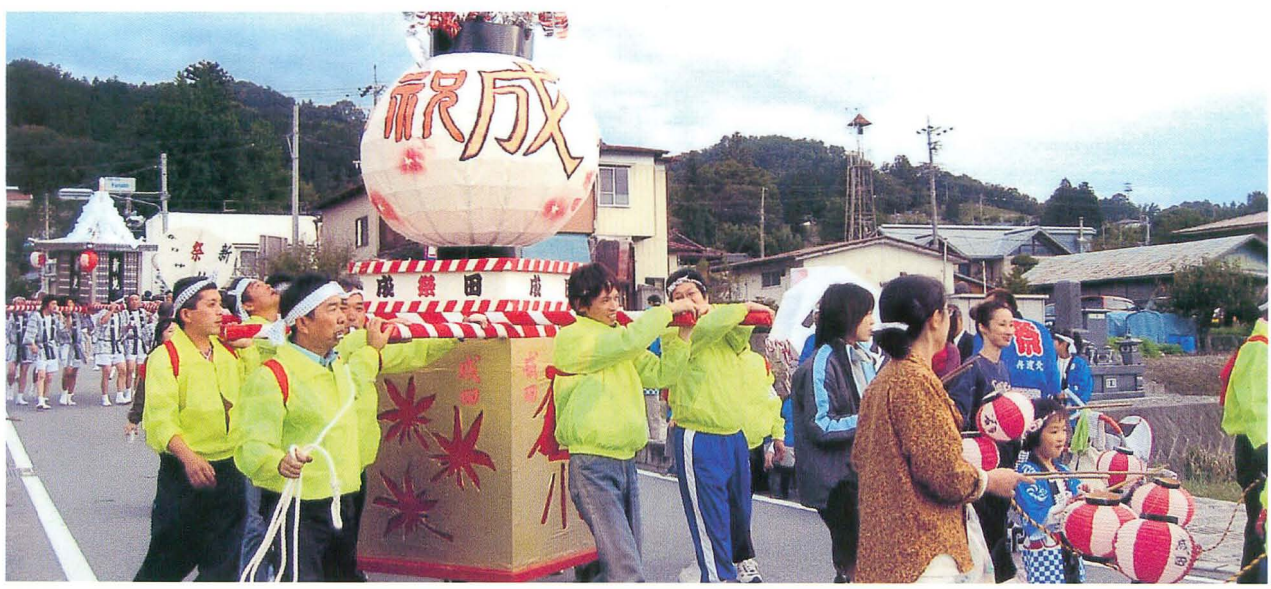
区民祭

五年毎
一区

二〇〇〇年は、春日神社ミレニアム記念大祭。

二〇〇五年は、春日神社二〇〇五年秋の大祭。次は二〇一〇年で、五年毎の秋に開催する。

地域共同体の崩壊が問題となっている現状を踏まえ老若男女を問わず参加し、お互いに相互理解を深め併せて地域理解と愛着を深め、地域コミュニティー形成維持と向上の機会とする。「無病息災、家内安全、子育て、長寿、五穀豊穣の祈願」御輿、きおい、花火、写真コンクール、等各種イベントを実施する。



一区

春日神社

春日神社の歴史は、知久神之峰城の出城、原の城の城主桃井定継に始まり、十二代目桃井定安に到り、桃井家の氏神であったと記録にある。

明治初年（一八七二年）の神社明細帳には登録がなく、昭和十五年三月に到って内務省神社局の許可により、神社明細帳に編入された。

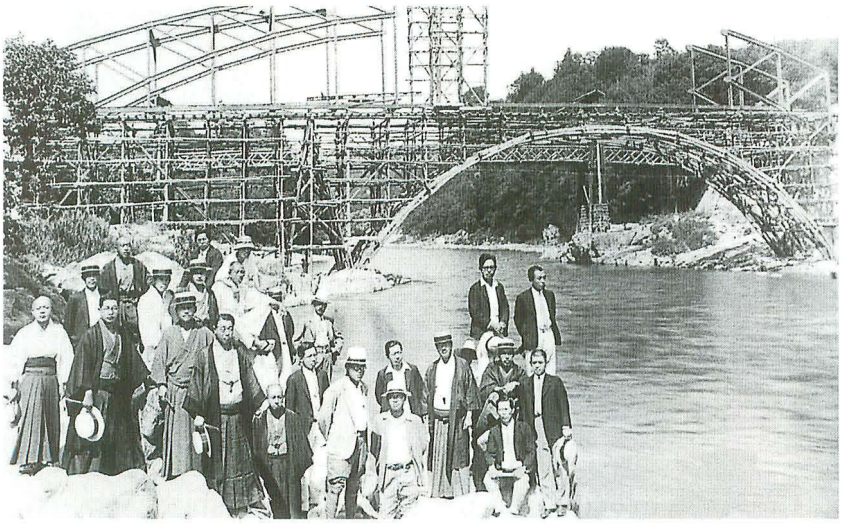
その後一区民は、村社とするため一丸となって遂次追願していた、太平洋戦争中に龍江出身の代議士、海軍参与官中原謹司の力添えもあって昭和十九年村社となった。

それまで大宮八幡社が一区・二区の土産（うぶすな）神社であった、昭和二十年当時の八幡社ならびに同春日社氏子の区域変えに関する覚書を取り交わし、それぞれの神社の氏子に属することになった。

そして昭和二十一年宗教法人法令により届出をしたのである。

一区の大獅子

一区の大獅子は昭和十年（一九三五年）、三代目天竜橋の渡り初めを祝おうと、当時の壮年団と地元の大工や籠屋（かごや）が中心となって製作された。中でも獅子頭は幅一・三メートル、高さ九十センチと巨大で、日本一大きいとされる。



時又側から見た、工事中の現在の天竜橋

昭和10年 天竜橋の完成渡り初めに参加した「一区の大獅子」

その後太平洋戦争を経て頭（かしら）だけが残り、長い間補修されながら保存されていたが、区民まつりなどで飾られるようになると大獅子舞を復活させようとの機運が高まった。

そこで国や県の補助を受け、平成十九年に獅子屋台と幌（ほろ）、法被、太鼓が復元され、保存会が発足した。